

2019年7月25日

「2019年度埼玉県公立学校学力検査問題・学校選択問題『英語』」に関する 要望書

さいたま教育文化研究所所長 山口 和孝
外国語教育研究委員会委員長 田中 渡

平成31(2019)年度埼玉県公立学校学力検査は3月1日に実施され、新聞などでその問題も公表されました。さいたま教育文化研究所外国語教育研究委員会では、英語の出題様式とその内容について分析・検討させていただき、その結果を以下のようにまとめました。

なお分析にあたっては以下の点を重視しました。

1. 中学校で学んだ基礎を確かめるものになっているか。
2. 設問形式が暗記された知識だけに依存するものになっていないか。
3. 英語の内容が身近で、中学校3年を終了した生徒の発達にふさわしいものになっているか。
4. 総じて、生徒の考える力や生きる力に結びつくものであるかどうか。

「学力検査問題」について

大問1「放送を聞いて答える問題」について

問題数は例年通り No.1 から No.7 までで、質問数も同じく 11 問である。内容は絵や図を見て答える易しい問題から、対話の最後の答え方を選ぶ問題と少しずつ難しくなり、最後の対話文とスピーチの英文は多量で速度も速く、かなり難しい問題となっている。また 30 年度には初めて問題の指示が一部英語で放送されたが、31 年度は最初の日本語による指示の後、再度各問題の始めに英語による指示が出された。

1. 放送時間、話される速度、総語数

(1) 放送時間について

放送時間は 12 分 43 秒で 30 年 (12 分 36 秒) とほぼ同様である。過去 5 年間の放送問題は毎年度約 13 分を要し、これは考査全体の約 25 % を占める。そのため受検生が他の全ての問題にしっかり取り組む時間が少なくなっている。これまで、この点について改善を要望してきたが、一向に改善がみられない。

要望 1・放送問題は 10 分以内に留めて欲しい。

(2) 放送問題の速度について

授業で用いられている中学の教科書準拠の CD の英語の速度は、NEW HORIZON (東京書籍) の中 3

の最後の長文 (Let's Read 3) の場合、1 分間における語数は 107 語である。これを 31 年度年の 1 分間の語数 166 と比較すると、その差は 59 語となっている。この速度は受験生にとっては異常な早さと感じられる。

過去 6 年間の【問題 7】及び【No.7】だけに限った毎分語数 (Words Per Minute) は、以下の通りである。2 年連続して 160 語数を超えており、年々スピードが速くなってきている。

要望 2・1 分間の WPM は 150 語数以下にしてほしい。

〈過去 6 年間における【問題 7】及び No.7 の WPM〉

実施年度	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	平成 31
毎分語数	157	148	157	154	165	166

(3) 放送英語の総語数について

30 年度に比べ僅かに減り 625 語であった。以下はこれまでの語数の変化である。

実施年度	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	平成 31
放送語数	633	664	684	602	630	619	653	625

〈参考〉平成 26 年度は 13 分 43 秒を要す。

2. 問題の指示と問題の内容

(1) 問題の解き方の指示について

30 年度までは【問題 1】(～【問題 7】) という表記が、31 年度は【No.1】(～【No.7】) と表記されるようになった。また放送問題の指示が、30 年度は英語による指示は【問題 7】のみであったが、31 年度は全ての問題の指示が英語でなされていた。英語による指示文は問題用紙に印刷はされて、かつ、放送問題の指示の最初で、日本語でも説明が加えられているのであるから、わざわざ英語で指示を行う必要はないと思われる。

質問 1・日本語で答え方の指示をしながら、英語でも指示を出す狙いは何か。時間の無駄ではないか。

要望 3・問題の指示は以前のように日本語のみで行い、英語の指示は止めて欲しい。英語の指示に約 45 秒の時間を要している。この時間を削除すれば、放送問題の総時間が 12 分 43 秒から 11 分 58 秒と減り、受験生にとっては負担が軽くなる。

(2) 各設問について

1) 【No.1】～【No.3】

毎回絵を選ばせる問題であるが、一部内容に疑問を感じる箇所があった。また学校ではきちんと指導されていない可能性のある語が出題されていた。

【No.1】

絵から時間を尋ねる問題であることが容易にわかる。ポイントは数字の 15 と 50 の聞き分けであるが、放送では明確に発音されていたので問題はない。

【No.2】

英文を聞いてコーヒーの値段を答える問題であるが、800 yen が聞き取れれば容易に答えられる問題と思われる。

【No.3】

wallet という単語は、埼玉県で採択されている教科書 5 社の中で、開隆堂の My Project という単元の中でのみ扱われ、巻末の語彙リストに収められている。しかし他の 4 社は巻末に和英辞書のように利用できる付録的な扱いをしているため、当然語彙リストには収められていない。そうなるこの付録を使うか否かは指導者の自由裁量に委ねられることになり、この単語を学ぶ生徒と学ばない生徒との間には不公平が生じる懸念がある。

質問2・教科書できちんと扱っていない単語を入試問題に出題する場合には、注釈をつけるのが普通である。しかし放送問題ではその対応が難しい。そのような状況の中でwalletという単語を使用したことは問題があると思われる。このwallet はどのような判断で出題したのか。

参考資料

＜ wallet の各教科書の扱い方＞

開隆堂(13)	東京書籍 (6)	学校図書 (4)	三省堂 (1)	光 村 (1)
単元「My Project」に掲載	本文掲載なし。 「Bonus Word Box」に掲載	本文掲載なし。 「My Words」に掲載	本文掲載なし。 「付録」に掲載	本文掲載なし。 「Word Square」に掲載
教育出版(0)	<注意①>教科書会社の () 内の数字は、埼玉県で採択された区域数を示す。 <注意②>この単語が巻末の語彙リストに納めているのは開隆堂 1 社である。他の 5 社は全て扱いが自由裁量の付録や特別な箇所に掲載されている。			
本文掲載なし。 別冊に補充学習として掲載				

2) 【No.4】～【No.5】

例年通りの形式で受検生も安心して答えられる良問である。

3) 【No.6】

30 年度同様日本人と外国人の 2 人の対話文を聞いて答える問題。英語一辺倒でなく、英語以外の外国語にも興味を示す良い内容である。30 年度は日本語の質問に日本語で答える問題であったが、31 年度は英語で答える問題に変わり、レベルアップした感じがする。

30 年度の【問題 6】の学校選択問題では答え方が不明確であったため、明確な指示を出して欲しいと要望したが、31 年度は学校選択問題も答え方が同じ形式（英問英答）に改善されており、受検生の負担が軽減されたと思われる。

4) 【No.7】

30 年度と同様自然環境をテーマにした問題。変わりゆくふるさとと変わらぬ昔のままのふるさとを語り、最後で街は変わり続けるがそれでも人の心は変わって欲しくない并希望する内容で、心にしみる感じがした。ただ質問と次の質問との間の時間が約 8 秒で短い。しかも Question 3 の質問に対する答えの 4 つの英文は長く、受検生が 8 秒で読むのは困難である。この点についても、昨年度同様の改善を求めたが改善されていない。

要望4・Question3の答の英文は10語程度にとどめて欲しい。

大問2「日本語のメモをもとに英語のメールを完成させる問題」について

30年度同様、基本的な語彙力を問う問題で大変良い。

大問3「説明文を読み取る問題」について

題材は日本に来て間もないためゴミ出しのルールがわからず困っていた ALT を助けた中学生が、外国人と共生をするために必要なことに気がつく話。今後増えることが確実な外国人就労者等との共生を考える上でも、大変時宜にかなった良い題材である。

(1) 語彙および文法面について

2 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去進行形・助動詞 (will) ・ 不定詞の名詞的用法 (want/start/try to ~) ・ 形容詞的用法 ・ 副詞的用法・動名詞 (start の目的語~) ・ 比較級 (It will be easier for Ms.Brower to ~) ・ 複文 (接続詞 while/that 省略形/be 動詞+ that 節) ・ 受動態 (3 学年で指導する教科書もある)
------	--

3 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主語 + tell + 目的語 + 不定詞・主語 + 動詞 + what 節・主語 + 動詞 (ask) + 間接目的語 + 直接目的語・関係代名詞 that (省略形も) ・ 仮主語
慣用句	<ul style="list-style-type: none"> ・ Why don't you ~? ・ /in front of ~ ・ had to ~ ・ leave + 目的語 + out

質問3・接続詞 while を掲載していない教科書が2社(東京書籍、学校図書)ある。注釈をつけるべきではなかったか。注釈を付けなかったのは理由は何か。

質問4・本文の中に The most important thing that Kota learned is that there are a lot of things to do to help people from other countries. という文があるが、be動詞+ that 節の文は教科書5社全てに掲載されていない。この文は学習指導要領から逸脱しているのではないか。

(2) 語彙数について

中学校の1レッスンの総語数はおよそ400語以下である。設問を除いた本文の語数は減少傾向にあり良いことであるが、それでもまだ400語を越えている。

29年度	29年度	31年度
454	437	427

要望5・語数が少しずつ減少し、改善されてきたことは評価したい。さらに総語数を400語以内に留める努力をして欲しい。

(3) 各設問について

問1

1文を本文 ~ のいずれかに補う問題。30年度から補う箇所が3カ所から4ヶ所に増えている。関係代名詞が省略された文を補う問題であるが、「最初に直面した問題」と素直に読めば答は導きやすいが、深読みをすると とまちがえる恐れがある。

要望6・語彙数が多いため補う箇所が4ヶ所は多い。3ヶ所に減らして欲しい。

質問5・イディオムの leave out は教科書5社に掲載されていない。注釈が必要と思われるがいかがか。

問2

受動態の基本的な過去分詞を書く問題であり良い。

問3

流れに沿って読めば自然に答えられる問題で良い。

問4

昨年同様複文の質問に英語で答える問題。昨年は語数が示されたが今回はなかった。

問5

昨年同様日本語の問いに日本語で答える問題。問題文に合う英文が見つければ容易に答えられる問題であり良い。

問6

4つの英文の中から本文の内容と合う英文を1つ選ぶ問題。3年間で学習した文法や重要語句の定着が問われると同時に、的確に読み取る力が要求される良い問題である。

(4) 注釈について

昨年の9個から4個と減り適切な数と思われたが、**質問3**にあるように、while は注釈が必要な語と思われる。

大問4「対話文とスピーチを読み取る問題」について

30年度から大問4が4つのセクション(対話文2つとスピーチ及びビデオレターが1つずつ)から成る問題に変わり、ページ数も3ページから4ページ(3ページ+3分の1程度)と若干増えている。本文の総語数は**679語**で、30年度の650語よりも若干**29語増えている**。またセクション**4**の問8の対話文を完成させる問題の英語(70語)も数えれば全体で**749語**となり、30年度より約100語増えている。開隆堂の中3の教科書にある巻末の読み物教材3つを例に取れば、この内の2つの物語はほぼ397語であり、最後の一番長い物語でも**657語**(5ページで挿絵付き)であるから、この大問4の749語がいかに長いかがわかる。

内容は**1**は、日本とシンガポールの高齢者の働き方についての3人の対話。**2**は、日本でショッピングモールを歩くプログラムに参加した高齢者は健康を感じるようになったというスピーチ。**3**は、ALTが自国で撮影してきたビデオレターでシンガポールの高齢者の働き方を紹介する内容。**4**は、高齢者に元気でいてもらいたいという願いでショッピングモール内を歩けるプログラムを企画した店長の考えを紹介するスピーチ。

大問3同様、高齢者の働き方という大変身近な社会問題を今年も扱っており、大変良い。今後ともこのような視点で問題作成にあたられることを望む。英文も語数を除けば平易で読みやすい。

要望7・語数を大幅に減らし、昨年同様大問4は最大3ページ以内に留まるようにしてほしい。

質問6・**3**の本文中の amazing は三省堂の教科書には登場しない。注釈をつけるべきではないか。

質問7・**4**の本文中の keep happy and healthy のように keep +形容詞の形で教科書に登場するのはI社(コロンブス)のみである。この単語も注釈をつけるべきではないか。

大問5「表現問題」について

昨年度同様トピックセンテンス1文の後に4文で説明する問題で、書きやすい構成となっている。ただ課題が定型化されてきているため、紋切り型の答が多くみられる傾向がある。

「学校選択問題」について

大問3「説明文を読み取る問題」について

総語数628語から成るビッシリと隙間なく印刷された英文を見て、目がくらむのを覚えた受検生もいたのではなかろうか。この長さは、受検生に必要な以上の緊張を強いるものであり、受検生に対して著しく配慮を欠いた問題と言わざるを得ない。

質問8・学校選択問題といえども語数が628語は明らかに異常である。何故これほどの語数の問題を出題するのか。

質問9・次の表は、注釈が必要と思われる13個の語句について、埼玉県で採用されている中学校教科書(5社)における掲載状況である。公平を期するためには注釈を付けるべきと思われるが、注釈を付けなかったのは何故か。

〈○は掲載、×は未掲載〉

	語句	開隆堂	東京書籍	学校図書	三省堂	光村
1	surround	○	○	○	×	×
2	support	×	○	○	○	○
3	disappear	×	○	○	○	×
4	appear	○	×	×	×	×
5	suddenly	○	×	×	○	×
6	temperature	×	×	×	×	×
7	prefecture	○	○	×	○	×
8	pollution	×	×	○	○	×
9	diver (dive)	×	×	×	×	×
10	bright	×	○	×	○	○
11	environment	○	×	○	×	○
12	activity	×	×	×	○	×
13	take part in	○	×	○	○	×

意見1

・問4の③の答のイの文には activity が含まれている。この単語も5社全てに掲載されていない。注釈を付けない語を含んだ文を答として選ばせるのは不適切であり、問題ではないか。

・また問題6の(2)の答となる take part (in) のイディオムを掲載している教科書は3社(開隆堂、学校図書、三省堂)のみで、他の2社(東京書籍、光村)は掲載していない。これも不適切であると思

われる。また、この問題の正答率が17.8%と全問題中で一番の異常な低さとなったのは未習語を出題したことと関係があるのではないか。

質問10・本文の下から3行目の sound like much についても注釈が必要ではないか。この表現を教科書5社で扱っている所はない。

要望8・過去3年間の正答率を比較すると、約4割の正答率は入試問題として難しすぎることを示している。受験生の負担軽減からも改善を切に要望する。

〈過去3年間の「大問3」の正答率〉

29年度	30年度	31年度
53.5	42.1	42.9

大問4「表現問題」について

与えられた課題に対して、自分の立場でその理由を40語から50語で書く良い問題である。ただ過去の課題(29年度の「海外留学」、30年度の「A1」)と比較すると、「情報リテラシー」という課題は漠然としていて、受験生にとっては焦点を絞りづらかったのではなかろうか。正答率も前年度に比べて明らかに低くなっている。

〈過去3年間の「大問4」の正当率〉

29年度	30年度	31年度
46.1	57.5	53.9

要望9・課題は受験生が迷わずに焦点を絞れて書けるように配慮した出題を心がけて欲しい。

意見2と要望10 「学校選択問題」の課題は「大問3」の長文である。これほどの量の英文を読む学習は、義務教育の中学校の普通の授業では行っていない。そのためこの問題に対応するためには、生徒は学習塾等に頼らざるを得なくなり、保護者には余計な経済負担を背負わせる。また経済的に学習塾等に行く余裕のない家庭の生徒にとっては、はなはだ不公平であると言わざるを得ない。経済格差が教育格差を生むことを助長するような出題は止めるべきであり、その意味でも「学校選択問題」は廃止すべきである。それが無理であれば、「大問3」の長文問題の大幅な改善を引き続き強く要望する。

2019年7月25日

埼玉県教育委員会
教育長 小松 弥生 様

さいたま教育文化研究所所長 山口 和孝
外国語教育研究委員会委員長 田中 渡

2019年度埼玉県公立学校学力検査問題及び学校選択問題「英語」 について検討のお願い

日頃、埼玉県の教育の向上に努力されていることに、敬意を表します。

さて、私たちさいたま教育文化研究所は、県民に開かれた研究所として1994年4月にスタートしました。研究所では、各種の研究委員会活動を展開しておりまして、外国語教育研究委員会では昨年度「2018年度埼玉県公立学校学力検査問題『英語』に関する要望書」を貴職に提出いたしました。

今後もより良い問題作成のために、2019年度の英語問題を分析し、その結果を「2019年度埼玉県公立学校学力検査問題及び学校選択問題『英語』に関する要望書」として作成いたしました。別紙のように添付させていただきますので、ご検討の上、次年度の問題作成に生かしていただきますようお願いいたします。

尚、今回も質問、意見、要望の3項目をそれぞれの問題の後に記しましたので、後日御回答いただけますようお願いいたします。

